

ニチレイグループ「6つの責任」

ニチレイグループは、ステークホルダーの皆さまからの期待に応えるため、経済的・環境的・社会的側面に配慮しながら事業活動に取り組み、その活動を広く公表し、理解と対話を深めてまいります。



CSR推進体制



トップメッセージ

事業を通して社会に貢献する ニチレイグループのDNAを 最大限に発揮して未来の幸せを形作りたい



代表取締役会長

村井利彰

代表取締役社長

大谷邦夫

くらしを見つめ、 人々に心の満足を提供し続ける

ニチレイグループの考えるCSRとは、事業活動を通じて社会に貢献することです。そもそも社会に貢献する事業を行ってこそ、企業の存在価値があると考えています。

企業は、単なる利益追求のための集団ではありません。それぞれの企業は、人々の豊かな生活を支えたり、世の中の発展に寄与するなど、自らが果たすべき志を抱いて、社会の中

で事業を行ってきました。

その志を実現するために、組織を形成して雇用の創出や人材育成を図りながら、社会に新しい価値を提供していく。そして適正な手段で得た利益から、従業員や取引先と成果を分け合い、納税や株主還元、あるいは将来的な社会課題への金銭的・人財的な貢献などに配分する。こうしたプロセスを着実に継続しているからこそ、企業は社会の構成員として認められ、存続していくことができるのではないのでしょうか。

いまや企業に求められている社会的役割は、以前にも増し

て大きくなっています。そのために、ニチレイグループでは事業を進める上で「6つの責任」を定めています。その根底にある今も昔も変わらない志は、「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」というミッションに集約されます。

ニチレイグループは戦後、水産事業と製氷・冷蔵倉庫事業からスタートし、長い歴史の中で、時代とともに新たなビジネスモデルを創出し続けてきました。人が生きていく基本である食に関連する商品やサービスを通じて、人々の生活向上に貢献していこう、という高い志を貫いてきたのです。

その時代ごとの「くらしを見つめ」ながら、「人々に心の満足を提供する」ために必要とされているものは何か。ニチレイグループが保有する人財やノウハウ、技術や設備を活用し、お役に立てることはないかと、従業員一人ひとりが日々たゆまぬ努力を続けてきました。いわば変化への迅速な対応力が、わたしたちの貴重なDNAとして生まれ、その成果は現在、加工食品事業、水産・畜産事業、低温物流事業、バイオサイエンス事業という4つの事業会社に表れています。

このDNAは、これからも受け継がれていくことでしょう。現在、各事業分野で、次の時代を見据えた新しい商品やサービスを提供していこうという努力が続いています。その模索の一端は、本CSRレポートの特集企画として掲載しています。

品質保証体制をさらに強化し 安全・安心から信頼の確保へ

ニチレイグループの事業の原点は、食にあります。食はどのような時代にあっても、人々が生きていくために欠かせないものであり、豊かで幸せな生活を送る上で重要な要素であることは間違いありません。

ここ数年、食品への異物混入、食品偽装などの問題が社会の注目を集めました。食の安全・安心の確保は、食を扱う企業として最優先すべき使命の一つだと痛感しています。もはや安全・安心は当たり前として、確固たる信頼を築いていくことが重要です。

そのためにニチレイグループでは、グループ品質管理規程を改正しました。主な変更点は、「食品安全（フードセーフティ）」の取り組みに、意図的な行為に対する管理を行う「食品防御（フードディフェンス）」、有事の際の迅速な情報発信を行う「食品危機管理」を追加し、3本柱としたことです。グループ内の基準を共有し、PDCAサイクルを回す体制を構築し、常に自信を持って品質を担保できる仕組みを、より強固なものにしていくことを目指しています。

第一の食品安全は、食を扱う企業として基本中の基本と考え、最優先で取り組んできました。従来から行っている食

中毒防止など有害微生物の制御、薬品管理や異物混入予防などの取り組みもさらに進めています。同時に品質監査など客観的評価を重ね、レベルアップを図っています。

第二に食品防御の取り組みです。2013年末に発生した冷凍食品への農薬混入事件を受け、食品安全の取り組みだけでは、食品への意図的な異物混入を予防することは難しいことが露見しました。具体的には、ハード・ソフト両面での体制を構築しています。

ハード面の取り組みとしては、万が一の事態が起こったときに状況を確認できるように、検証カメラを設置しています。ニチレイフーズの自営・投資工場ではICタグ認証等を、ニチレイロジグループの東扇島物流センターでは顔認証登録システムを導入するなど、高いレベルでの管理を進めています。

同時に、ソフト面での取り組みにも力を入れています。実際にPDCAサイクルを回していくのは人ですから、さまざまな制限を設けるだけでなく、風通しの良い職場、働きがいのある職場づくりを推進しています。

そして第三の柱である食品危機管理。ニチレイグループでは危機管理の仕組みを構築しています。商品回収に関する対応フローを整備し、定期的に模擬訓練も行っています。

持続可能な事業活動とは 環境との共生なくしてあり得ない

安全な食の源泉は、豊かな自然環境です。ニチレイグループは、環境負荷削減の取り組みを事業活動の一貫として日々継続しています。事業を営む以上、低炭素社会を実現するのは、わたしたちの使命です。適正な事業活動を行っていけば、自ずとエネルギー使用量や廃棄物を削減できる。むしろ、そういう形で事業を行っていかなければ、企業として存続していくことはできないと考えています。あらゆる事業活動において、バリューチェーン全体を通じた環境負荷削減に取り組むのは、当然のことなのです。

たとえば調達段階では、ニチレイフレッシュの「^{いのち}生命の森マングローブ植樹プロジェクト」など、地域と共生した持続可能な調達に努めています。また製造段階では、食品工場における燃料転換に、物流段階では共同配送やモーダルシフトなどを通じたCO₂削減のほか、冷蔵倉庫における自然冷媒への転換を進めています。

そして消費段階では、容器包装の削減に加え、近年では

商品の売上に応じた森林保全活動の支援も始めています。

現在進行中の環境中期目標では、2015年度までの3年間に、2009年度比で電力使用量を5.5%、燃料由来CO₂排出量を7.5%削減するとともに、廃棄物リサイクル率は99%以上を維持することを目指しています。現段階では、目標達成に向けて順調に進捗していることをご報告いたします。

一人ひとりが主役として活躍する その実現こそが経営の責務

企業の価値は資産規模や資本金などで単純に決めることはできません。ヒト・モノ・カネ・情報・時間といった経営資源の中で、自ら考え、他の資源を使って活動できるのはヒト以外にありません。企業の真の価値源泉は、まさしく人財なのです。

一人ひとりが日々生き活きと仕事をし、充実感や成長感、連帯感を味わうことができれば、さらに働きがいが増していく。その結果として、企業が発展、成長していく。こうした個人と組織の成長の連鎖を実現することが重要と考え、経営の方針として、働きがいのある職場づくりに本気で取り組み続けています。

ダイバーシティ実現のため、女性やシニア層の活用にも積極的に取り組んでいます。誰にでも等しくチャンスが与えられる環境を整備するとともに、属性に縛られず、一人ひとりの意欲と能力を公正に評価しています。

従業員には日々の業務の中で悩むことがあれば、「お客様第一、安全第一、品質第一を貫く」という原点に立ち返るよう働きかけるとともに、各事業会社で従業員と経営者との直接対話を行うなど、職場内のコミュニケーションを深める取り組みも長年実践しています。

また、社会貢献活動においても、従業員を中心とした取り組みを推進しています。それぞれの地域社会と関係を構築し、こまやかな支援を行うことを基本としています。事業所見学やスポーツ支援など、ニチレイグループの人財やノウハウを最大限活用した「顔の見える社会貢献」を行っています。それにより、ニチレイグループとはどういう会社なのか、どういう人々がどんな思いを持って働いているのかを、広く皆さまに知っていただければと期待しています。

わたしたちの取り組みが、人々の幸せに貢献できるよう、この先も一人ひとりがたゆまぬ努力を続けてまいります。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

中期経営計画「RISING 2015」 (2013年度～2015年度)

- ① グループ各社の国内外における収益力を向上し、持続的成長を実現します。
- ② グローバルな品質保証体制を構築します。
- ③ グループ経営資源の適正配分を行うとともに、自己株式取得・増配等適正な株主還元策を継続します。
※配当方針については従来どおり連結株主資本配当率(DOE)2.5%を目標とします。
- ④ 持株会社体制におけるコーポレート機能を強化します。
- ⑤ 社会・経済環境の大きな変化に対応して技術戦略の強化を図ります。